

研修会(講演)

# 演題 『わが道 回想』



センテナリアン洋画家  
豊田 三郎氏

1908年9月生まれ。あと3ヶ月で106歳。東京で絵の勉強中に「筆の折ふし風に／なびけるを／驚きては立つ／小雀らかな」を北原白秋から愛情のこもった歌と絶賛される。氏は風景に出会い感動すると歌が浮かび、その感情移入によって絵が生まれるという。戦後の18年間に県内中学校に奉職された我々の大先輩でもある氏。絵画への熱い思いや一世紀を生き抜いた人生の重みをユーモアをもって語り続けられ、設定された講演時間だけでは氏も聴衆も満足できず、名残は尽きなかった。

## 〈講演内容〉

私は現実の風景に感動すると短歌が生まれ出てくる。全体をまとめた短歌を中心として絵ができる。絵は感動。感動したら絵が描けると、その顕著な例を3枚の作品を提示しながら、

セットになった短歌と合わせて説明された。

### 1 「鹿の子斑」



・南風来らし山の此方は雪解して今日川水の濁り増しつづふるさとのめぐりの山の愛しさよ鹿の子斑に雪は消えつつ

### 2 「挿秧」



・挿田女の影もしるけき五月晴れ遠くほろほろ鳩も啼きつつ

### 3 「山路」



・杉起しに元綱結き振り向けば谷の下ツ辺老鶯の啼く  
・山路来て寂しけらしもなかなかに小鳥さえずり牧歌催す

#### ○トヨタグリーン

世界にない、私だけの自慢の色だと誇らしく説明される。「トヨタグリーン」と国内外から高い評価を受けており、現在日本の絵の具会社が氏独特の色合いの絵の具を作り、販売。3色以上の色を混合すると灰色になってしまうが、もう一步でダメになる、2色で作った色。このこだわりの絵の具を使った作品が世界の人々を魅了している。

#### ○絵描きを志したのは

今からちょうど100年前の5歳のとき。上級の小学生の凄い墨絵を見て「あんな絵の描ける大人になろう」と願ったが、男の子は百姓というのが親の方針。卒業後は必ず百姓になるとの約束で農林学校へ進学。下宿では手当たり次第に絵を描いた。卒業後は5年間農業に従事するも、夢捨てきれず上京。帝国美術学校で学び、画家の道へ。勘当され、親からの援助は一切なく、80歳まで我慢の貧乏生活を送り、長かったと振り返られる。

#### ○絵を描くこと

私は作品に命をかけている。裸一貫で独学。80歳過ぎてヨーロッパで認められ、日本でも認められるようになってきた。

#### ○現在

父から受け継いだのはふるさとの山の杉。その杉の一生を描きたい。描き終えるのにまだ10年かかる。これが終わるまでは死ねない。ふるさとの山や川を

絵にして100枚残すこと、ふるさとに貢献したいという大きな目標を持つ。

#### ○世界の画家として面目躍如

カラヤン生誕記念のアートフェスティバルに出品した「山笑う」が、小澤征爾指揮の楽譜の表・裏紙に採用された。その原画は、現在、チェコの国立美術館に収蔵されている。

#### ○印象的な言葉

酒は体に毒。人間の体にアルコールは必要なし。「アルコールを飲む人はこまでこられません」と茶目つ気たつぷり。

#### ◆圧倒された言葉

「とにかく私はまだまだ生き残ります。体操するときも10で止まらず、11という思いでやらないといけません。とにかく頑張りましょう」「退教のスローガン、『めざせ100歳!』ではダメ。100歳などチョロチョロだよ。目標を持って生きよ」「社会のために自分ができることをしなくては、高齢者の価値はない」と、チョロチョロにもならない私たちが大いに励まされて、会場は笑いと感動の渦の中で終演となりました。

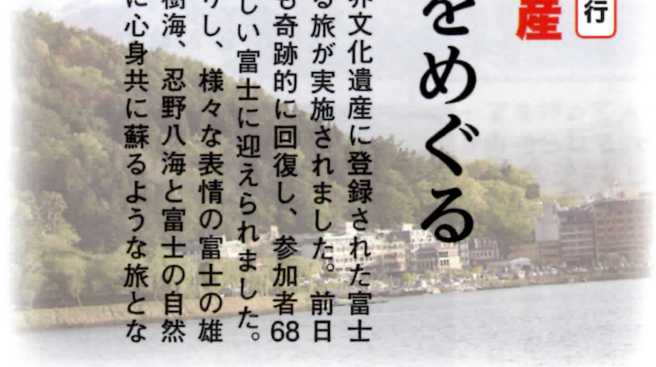


平成26年度 親睦旅行

### 世界文化遺産

## 富士山をめぐる

5月13・14日、世界文化遺産に登録された富士山の名勝史跡をめぐる旅が実施されました。前日まで心配された天気も奇跡的に回復し、参加者68名は青空に映える美しい富士に迎えられました。すそ野をぐるり一回りし、様々な表情の富士の雄姿を堪能。青木ヶ原樹海、忍野八海と富士の自然の清々しい空気や水に心身共に蘇るような旅となりました。



### 富士にうつとり 自然を満喫

- ◆富士美人 チラチラ顔見せ ためいきか
- ◆富士山は 遠目見るべし 若葉風
- ◆四方見の 夢がかなった 富士めぐり
- ◆のんびりと 富士山ながめて 癒しの湯
- ◆富士山は デンと構えた 熟女かな
- ◆富士山 最高でした 朝も昼も夜も
- ◆おばさんの 寝相はいかがと 月と富士
- ◆遺産、遺産 群れよる人に 肌を見せ
- ◆五合目から ひとまたぎしたい 富士山頂
- ◆退教の 旅のお陰で 風穴に入る
- ◆これでもか 富士のお山が 追いかける
- ◆湯に浸り 富士山見上げて 古希祝う
- ◆おしゃべりを 封じる富士の 力かな
- ◆富士山に 届いた熱意 雲を動かす
- ◆水豊か 忍野八海 ワンダフル

- ◆富士山と 裸でおはよう 還暦にて
- ◆露天風呂 はじらい見せる 影富士も
- ◆独り見る 心を支える 広き富士
- ◆恋人と 会うが如しの 富士旅行
- ◆これぞ富士 己の生きざま 指針とす
- ◆また来たか すっかり老けたと 富士笑う
- ◆ハイポーズ 富士をバックに 皆ごきげん
- ◆富士山を 撮って目ざすぞ 日本一
- ◆富士山に 振り回される バス旅行
- ◆社の木 樹齢千年 よき夫婦
- ◆二日とも 富士の美景に 大はしゃぎ
- ◆山菜の 仲間と知りし ハナイカダ
- ◆逆さ富士 送ったメールに 感嘆符
- ◆一生分 富士山見たよ 大満足

### 樹海探索



### 和気あいあいバスの旅

- ◆若いわねエ 互いにほめ合う 乙女たち
- ◆みやげ買い 心も満ちて 富士の旅
- ◆富士よりも ソフトクリームと 山ぶどう
- ◆最初はグー 空気の缶詰 射止めたり
- ◆おんな旅 話とぎれぬ バスの中
- ◆下りるたび ふえるみやげと とっこいしょ
- ◆何よりも 天気次第で 決まる旅
- ◆旅日和 晴ればみんな オレと自負
- ◆賽銭も 増税しました 神の声
- ◆富士土産 行く先々で 買い足せり
- ◆野ブドウの たたき売りの声 眼が光り
- ◆うれしいな 財布ひろげて みやげ買う
- ◆遠距離の 旅に欠かせぬ ガイドさん
- ◆ありがとう 82女へのプレゼント すばらしかった富士の旅

※紙面の関係で、お名前を省略の上、全員の川柳や感想を載せることができなかったことをお許しください。